

特別企画展

中国青花と染付磁器

—京都の鹿背山焼



透けるような
白地
鮮やかに映える
青い文様

2021年2月19日(金) — 4月4日(日) 大和文華館【奈良・学園前】

休館日 毎週月曜日 開館時間 午前10時〜午後5時(入館は午後4時まで) 入館料 一般630円/高校・大学生420円/小学・中学生無料 ※20名以上の団体は相当料金の2割引で引率者1名無料 ※「障がい者手帳」をお持ちの方とご同伴者1名2割引 ◆特別講演 3月14日(日) 午後2時 講堂 「鹿背山と鹿背山焼」 西念寺御住職 田邊英夫氏 ◆日曜美術講座 2月28日(日) 午後2時 講堂 「鹿背山焼にみる中国陶磁の要素」 当館学芸部課長 瀧朝子 ◆講座 美術の窓 3月7日(日) 午後2時 講堂 連続講座「広重―風土と旅情を描く」第1回「広重―生涯と画業(前編)」当館館長 浅野秀剛 ◆スライドによる展覧会解説 毎週土曜日 午後2時 講堂 当館学芸部による ※新型コロナウイルス感染症拡大の状況によっては、人数制限をする場合があります。 上：吹墨手 鹿桜紅葉文鉢 鹿背山 江戸時代 木津市教育委員会蔵 中：青花双鱼文大皿 中国明時代 大和文華館蔵 下：雲龍図盃 鹿背山 明治時代 西念寺蔵

Blue and White
Ceramics of
China and Japan
—Kaseyama-yaki
of Kyoto

特別企画展

せい
か

中国青花と染付磁器 — 京都の鹿背山焼

か
せ
やま

白地に青い文様が鮮やかに映える中国の青花磁器は、世界各地で愛好されて輸出され、また製陶や文化にまで大きな影響を及ぼしました。日本においても、江戸時代初めに青花を手本にして染付が誕生し、江戸時代後期には京都でも磁器や中国陶磁の写しが行われるようになります。江戸時代後期に京都を中心に活躍した陶工である青木木米(1767-1833年)は中国磁器写しに秀で、古染付や祥瑞を巧みに写した作品を数多く残し、さらに木米特有の清涼感溢れる造形を生み出しています。



1



3



2



5



4



6

京都府木津川市鹿背山では、江戸時代後期から明治時代にかけて、中国・明・清時代の青花を写し、精緻な文様が描かれた質の高い磁器として鹿背山焼が焼造されました。本展覧会では、当館が所蔵する鹿背山焼「染付花鳥文水指」や中国陶磁、日本の染付磁器とともに、西念寺や海住山寺、木津川市教育委員会、京都国立博物館などが所蔵する鹿背山焼を特別出陳し、中国の青花の日本での受容と染付の展開を探ります。

- ① 重要文化財 染付山水文大皿 有田 江戸時代 大和文華館蔵
- ② 祥瑞写仏手紺鈕蓋物 鹿背山 江戸・明治時代 木津市教育委員会蔵
- ③ 山水人物文碗 鹿背山 江戸時代 個人蔵
- ④ 人物文陶板 鹿背山 江戸・明治時代 個人蔵
- ⑤ 蓮弁文高坏 鹿背山 江戸・明治時代 海住山寺蔵
- ⑥ 祥瑞写染付結文形根付 永楽保全 江戸時代 大和文華館蔵

Blue and White Ceramics of China and Japan — Kaseyama-yaki of Kyoto

The blue and white porcelain of China, with vivid blue patterns on a white background, has been beloved and displayed across the world. This exhibition explores the acceptance and development of the blue and white in Japan, such as the Kaseyama-yaki of Kizugawa in Kyoto Prefecture.

大和文華館

THE MUSEUM YAMATO BUNKAKAN

〈交通〉近鉄奈良線学園前駅下車、南出口より徒歩約7分、無料駐車場あり

〒631-0034 奈良市学園南1-11-6

TEL (0742) 45-0544 FAX (0742) 49-2929

大和文華館 検索 @yamatobunkakan

